

平成23年度 大学の世界展開力強化事業構想の概要【米国大学等との協働教育の創成支援】

大学名	名古屋大学
構想名称	修士課程国際共同大学院の創成を目指す先駆的日米協働教育プログラム
相手大学等名 (国名)	カリフォルニア大学ロサンゼルス校(米国)、ミシガン大学(米国)

【構想の目的及び概要】

本構想は、修士課程国際共同大学院の創成を目指し、名古屋大学大学院工学研究科と米国カリフォルニア大学ロサンゼルス校（UCLA）、ミシガン大学大学院工学研究科が国際協働教育を実施することにより、我が国の科学技術の持続的発展を支え、世界進出できる若手人材の育成を目的とする。2ヶ月間の短期コース、6ヶ月間の中期コース、12ヶ月間の長期コースを日米の両地で同時に実施する国際・学際教育プログラムを新たに構築することにより、毎年10～20名の大学院修士課程の学生を相互派遣する。これにより、工学研究者を志す学生の減少や英語力の不足、世界的な知見の低下などの懸念を解消し、我が国の大学院教育活動の発展および国際競争力の強化に大いに貢献できるグローバルな若手人材を育成する。さらに、本プログラムの実施を通して、新たな学びスタイルを確立するとともに国際共同大学院の創成基礎を構築し、我が国の大学教育活動の発展および国際競争力の強化に大いに貢献する。

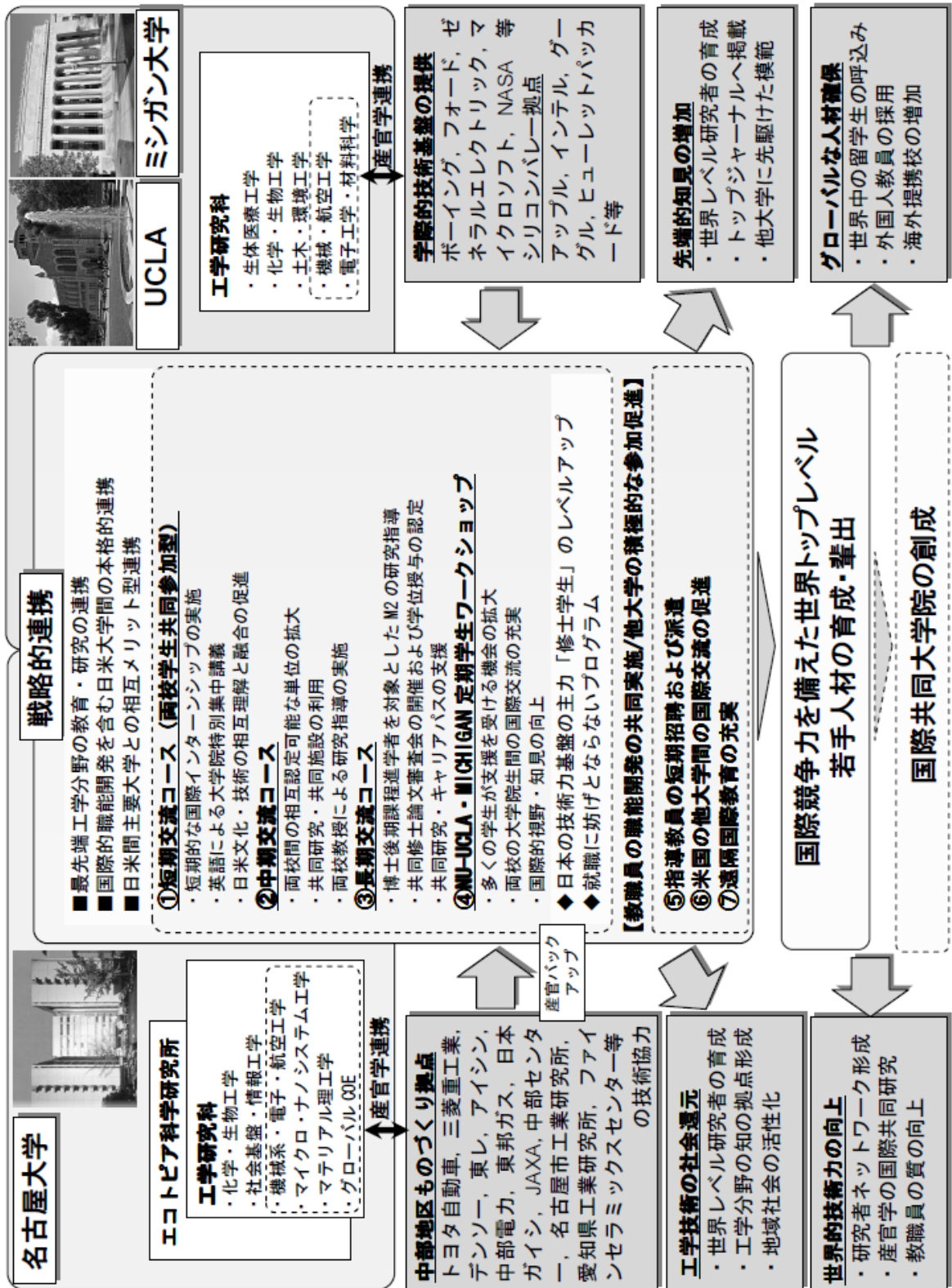
本プログラム実施は、日本の「ものづくり」の中心に立地する名古屋大学の特徴を活かして、UCLAとの交流基盤が構築されているマイクロ・ナノメカトロニクス教育研究拠点をはじめ、マイクロ・ナノシステム工学専攻、機械理工学専攻、航空宇宙工学専攻、マテリアル理工学専攻など「ものづくり」に関係する各専攻分野が先導し、工学研究科全体でのさらなる展開および強力的な推進、さらにエコトピア科学研究所との緊密な連携により、プログラム内の大学院間で単位の相互認定を実現するとともに、成績管理、学位授与の共同実施を図る。

5年間継続により、以下の内容を実施し、本プログラムの目的を達成する。

- ① 短期交流コースの修士学生の派遣および受入れ
2ヶ月間で日米両方の大学院修士課程の学生をお互いに派遣し、両方の教授陣による特別集中講義および英語力養成授業を受け、相互認定可能な6単位を取得する。さらに現地での企業見学なども積極的に実施する。
- ② 中期交流コースの修士学生の派遣および受入れ
6ヶ月間で日米両方の大学院修士課程の学生をお互いに派遣し、各基礎、専門科目の単位取得や日米両方の教授陣による研究指導、共同施設の利用など、両方の特色ある充実した教育支援を受ける。相互認定可能な10単位の取得や、標準修業年限内の課程修了、学位授与を実現する。
- ③ 長期交流コースの修士学生の派遣および受入れ
12ヶ月間で日米両方の大学院修士課程の学生をお互いに派遣し、同じ専門分野の研究室に配属する。セミナー単位の取得や日米両方の教授陣による研究指導、研究施設の共同利用、キャリアパス支援など、両方の特色ある充実した研究支援を受ける。共同修士論文審査会の開催、研究指導および単位の認定を行い、標準修業年限内に修士学位を授与する。
- ④ 名古屋大学—UCLA・ミシガン大学定期学生ワークショップの開催
より多くの大学院学生が本プログラムに参加できるようにするため、上記3つのコースの学生交流と並行して、定期的に日米の両地で学生ワークショップを開催し、派遣できなかった大学院修士学生間の国際交流を促進する。
- ⑤ 指導教員の招聘および派遣
本プログラムを円滑に推進するため、派遣および受け入れ予定学生の指導教員やプログラム関連の講義を担当する教員を一定の期間、派遣あるいは招聘し教員レベルの学術交流を促進することにより、研究水準の向上や国際ネットワークの形成を図る。
- ⑥ 米国の他大学間の国際交流の促進
本プログラムの発展および普及を見越して、工学研究科および名古屋大学の各専門分野の特徴を考慮し、UCLA、ミシガン大学以外の特色ある米国大学との国際交流を積極的に行い、学生と教員の派遣および受入れを実施する。
- ⑦ 遠隔国際教育の充実
ICTを駆使した遠隔国際教育を充実することにより、実施大学の学生だけではなく、他大学の学生も本プログラムへの参加を可能にする。

以上のように本プログラムを精力的に推進することにより、我が国の工科大学院の修士課程学生に国際的なレベルの高い教育に接する機会を与えて、英語力の増強や研究意欲の向上、世界的な視点からの研究課題の提案力の養成を実現する。さらに、本プログラムの実施を通して日米両方の各研究チーム間の共同研究を促進し、各分野の世界に発信できる先端研究拠点を形成する。これにより、プログラム内での学生の在籍管理、単位認定、成績管理、論文審査、学位授与、就職支援、学生および教員の交換の共同実施を図り、国際共同大学院の創成を目指す。

[構想の概念図]



平成23年度 大学の世界展開力強化事業 審査結果表

大 学 名	名古屋大学
タ イ プ	B-I
構 想 名	修士課程国際共同大学院の創成を目指す先駆的日米協働教育プログラム
<p>〔評価コメント〕</p> <p>本プログラムは、工学分野において我が国の科学技術の持続的発展を支え、世界進出できる若手人材の育成を目的とする意欲的な計画であり、ものづくり拠点である名古屋にふさわしい内容となっている。交流相手であるUCLA、ミシガン大学という世界トップクラスの大学と、それぞれの大学の特性を生かす試みがなされており、名古屋大学は両大学と豊富な交流実績がある。</p> <p>さらに、名古屋大学では英語による授業もすでに多数開講されているなど、本プログラムの実現は十分可能であると考えられる。また構想の中核として短期交流コース、中期交流コース、長期交流コースの各コースが準備されている点も、学生のさまざまなニーズに応え、国際人材を育成する上で有効であると評価できる。</p> <p>しかしながら、本構想に参加する学生の語学力以外の要因を含めた選抜方法、派遣中の教育内容、単位の相互認定の取り扱いなどについては十分に明確にされているとは言えず、さらなる検討が求められる。</p>	